

第1回内航船舶の代替建造促進に関する懇談会議事概要

【委員からの主な意見】

- ・ 現在、内航海運の業状は厳しく、現在の船価では建造は困難であり、運賃・用船料が上がらないことが問題である。
- ・ 造船所は受注生産であり、現在は受注の堅調な外航船建造へ回ったり、修繕業に回るなどしている。このため、さらに内航船建造が減少している。ひとたび内航船から離れるとすぐには内航船を建造可能な状態には戻せないため、継続的発注が求められる。
- ・ 船齢が上がっても安全かつ確実に輸送ができれば、社会的には問題にはならないのではないか。船舶の代替建造が進まないと、事故の増加や、それに付随して海洋汚染が深刻化するという、根本的な問題がある、という整理が必要なのではないか。
- ・ 安全面、環境面での社会的要請に応えるためには、設備投資が必要である。現在、老朽化に伴って、維持費や事故の確率、海外への中古船マーケットへの影響等様々な問題が危惧されている。
- ・ 内航においてコモンキャリアを相手にしているのは、コンテナ船とRORO船くらいで、大部分は荷主の下で系列化されている。そういった状態でマーケットメカニズムによる最適資源配分がなされるかは疑問である。荷主も含めて最適化のために議論が必要ではないか。
- ・ 船用工業は技術革新にこれまで努力してきたが、それが運賃、船価に反映されているか疑問である。今後も省エネ等の社会的要請に応えていくため、経営が成立するようなサイクルが必要である。